

114
A 4154
S

奉
上

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

一 六月九日府下教師三三長崎移住就_ル當日出立

前書生一同堂内_ニ招_キ懇切_ニ教誡_ス二字出堂諸生

一同彼_ノ饒_シ高山直治良_ノ極_ク遠_ク別_レ致_シ十日歸府住_ル

一 十日宮城縣閩新六_ト申_テ商會_ニ高見_ト榎_ト中_ト皇_ト高_ト亦_ハ丹_ノ関_ニ

人名表_ニ教_ノ受_テ野_ニ

御政態_ト号_ヲ外_ニ生_テ見_テ聞_クク_ノ出_テ堂_ニ致_シ后_ヲ將_テ教_ノ會_ニ入_リ教師

上談話_ノ致_ス

一 十日前日_ニト_シ演_ス下_リ當日歸府夜_ニ亦_ハ丹_ノ関_ニ集_テ堂

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

致し先日、會儀成三ノ上、一早、堂并改革致し規則相改、
申スル教師、申出ル、三ノ上ノ追テ主教上京就大近
従前規則相改、申スル、横原、異儀區、長崎
茂實、弘教、チノ巡國、之ヲ以テ、主教、意ヲ考、
愚氏、携引、事下致シ、併し、東京ノ方、諸子ノ存
意、相成、申、又、香港、上、下ノ務、態、遠、シ、衛生、令、祝、
布教、ア、キ、一、女、年、十、ト

一 十六日 耶蘇生誕ノ像ノ装、申、ト

一 十七日 聖母聖堂行、支那年ノ 裝、申、ト、同夕、入堂致し、祝、

言後、仇久、何、使、治、教師、向、和、本、妻、支、部、作、由、師、命、
ヲ、犯、ス、ル、罪、人、希、述、書、依、教、法、習、修、ス、ト、自、心、快、リ、ク、
ト、教師、等、述、ル、聖、理、之、違、セ、ト、何、ク、其、人、ノ、礼、ヲ、及、ス、要、
部、新、造、年、久、ノ、堂、并、ヤ、リ、ト、和、業、相、題、シ、自、高、ノ、心、ヲ、
主教、出、堂、ヲ、請、シ、且、ツ、家、婦、ヲ、呼、ヒ、外、宿、致、シ、隨、意、出、入、
ノ、許、シ、受、度、ノ、願、ヒ、申、ク、凡、無、味、ヲ、禁、成、ヲ、受、テ、後、分、録、
脱走致し

官府、婦、和、又、丹、ノ、奸、邪、ノ、教、ヲ、ト、祈、詔、刻、
神通ノ書ノ着シ、由、誠、ニ、高、宗、ノ、詔、ナ、リ、ト、云、

一、十日、リ、下、教、會、ノ、主、宰、ト、シ、テ、主、教、ヲ、差、立、ル、日、
中、外、ノ、諸、人、ト、シ、テ、名、手、採、本、三、階、敬、以、申、入、堂、致、以、
敬、白

中六月

東郷叡

長崎府下教令位長崎縣下浦上園主良上申者

口上

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

東卷

小池

一 九月和府下教令位長崎縣下浦上園主良上申者
長崎天主堂位松次良上申者
遣候書状
光頃御仁惠ヲ以テ歸國仰付之先
那徒等追々
教ニ歸參之日々三四人
告解ヲ致シ候由園主良上
直見仕候

一同廿日三猶縣平田友雄
從來取病、也、書見、亦、來
弟候此當日教印
添書致、濱、病院、入、應用、
加申へ、失費等、候、也、取計、真、実子、候、致、



後改書生等情態。狂神如教師ノ信申候

一同十日横濱主教へ下ド長崎行其故浦上人帰教

ノ一件。就ノ長崎教師等。後難ノ顧ニ伺来候三

主教彼地。發向未春迄滞留致候由アリ。中聞候

一同十日宮城縣窪田教助ノ旨。故主伊達正宗洋教ヲ

信ニ家士長谷倉某ッノ羅馬ニ到ラシメ教理ヲ與テ後

長谷倉教師二人ヲ携ヒ帰國。此正宗死後且舊幕府

將軍時邪嚴禁教法弘通。申度ニ教タマヒ定見ル終

ニ教師囚レ刑セラル其時申来記十字架ノ画像等

庫中ニ秘メ代々相傳。又長谷倉大和守向喜八家從所

ヨリ切支丹ヲ相傳候也。御新政廢藩ノ功。右某記

等桐函藏ノ幕府渡ス窪田教助又是ノ勅ト教助自

ラ談話仕候ニ教師。墳宮現存依テ右摺シテ送候。中

一同十日教舎移住ノト官許。由佛人シブスレト申者

来リ教師。告ケ申候

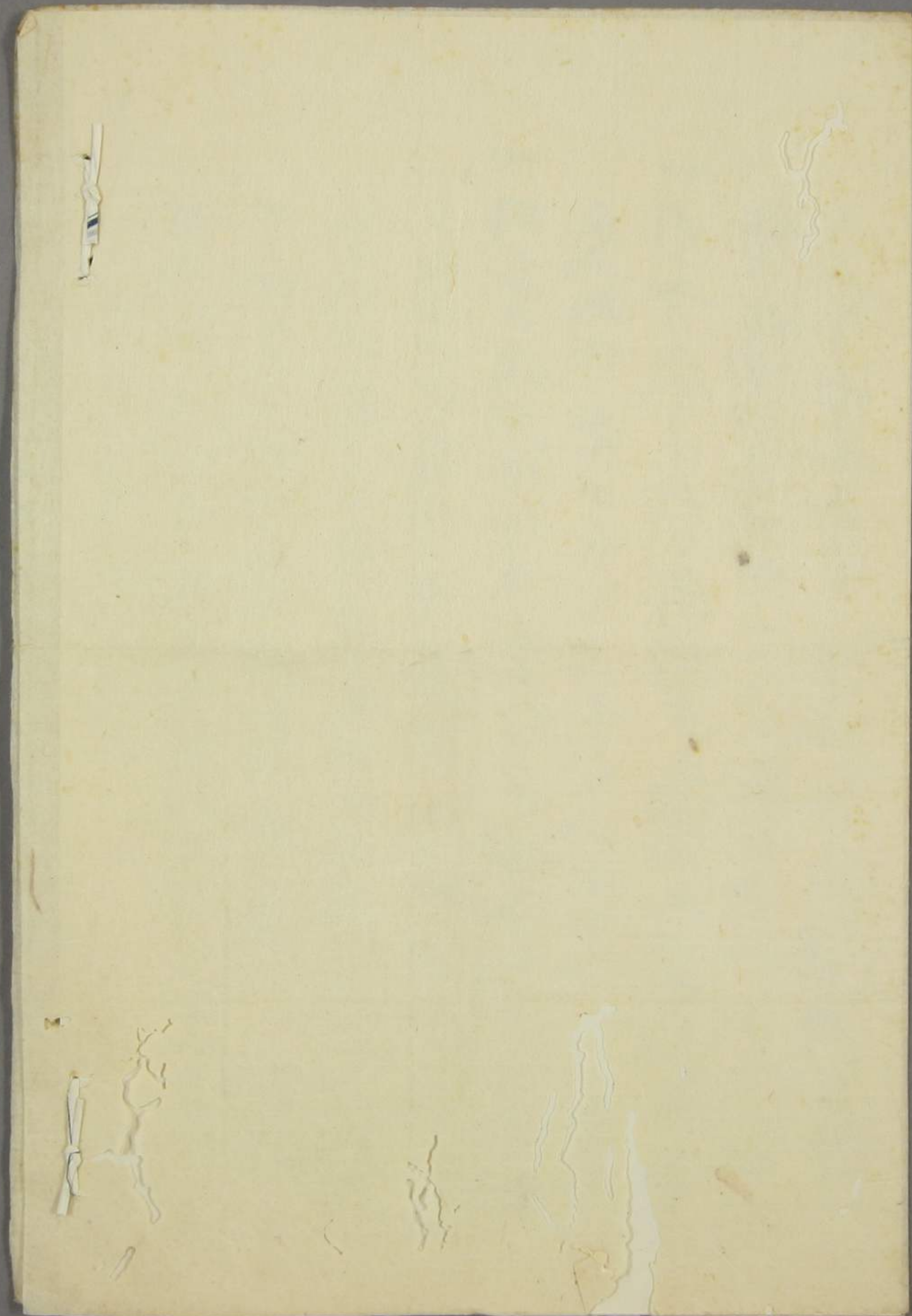
一同十日ニコライ門下高橋某教舎来リマリニ添書シ

請ヒ横濱ニ下リ申候

敬白

中九月

謹者 某



壬午七月廿一日
カニ生(カニ)

口上

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

六月十九日教師マリ下港ヨック園五良ヲ伴フ

此者己ヨリ横濱ニ留ル申候

一同廿一日マリノ帰京長崎縣大浦郷伊物ト申者伴
来ル此者ノ話切支丹ハ買セス耕セス衣食ヲ全シ
生命ヲ保ツテ只信徳ニ依テ主教ヨリ賜ル感荷ノ境
源トロフマオフランス宗徒ノ信託ソヲ買ス下五港在堂
ノ切支丹其入質夥ク報セント知メ其志ヲ遂ケス説
告解テ高恩ノ謝スニト私自質通学ノ下



實中候

- 一 廿二日宮城縣太田春實病氣ヲ申シテ府下沼津町
- 一 下目八石屋下宿仕リ七月十三日帰堂侍候
- 一 廿九日横濱住アズルスデロフ外ニ名三教師未ク教舎
移轉ノ會議ヲナシ同日四字群島縣高山直治良ク
伴ニ帰港侍候
- 一 七月二日長崎伊勢帰港同日宮城縣多田清助代リ
来リ府下教舎ノ長トシテ申候
- 一 同日越前新瀨ノ教師エブラノ添幹ヲ里村匡ト

申者入教致シ日々通学侍候

- 一 同六日マリシ下港聖日長崎辰吉門ト申者ヲ伴ヒ上京
- 一 同八日東教ニ師ニシテ河下高橋某教舎来リ教義
ヲ試問侍リ夫ノ度々教舎ヲ尋申候
- 一 同十日ミドシ同伴ヲ依久。辰吉門。多田和マリヤ拜天
ノ祝日ニシテ下港侍候
- 一 同十一日朝六字ノ勤ナミトシ侍リ九字祝日ノ勤行アズルス相
ニ行參堂者初廣津ノ男女六十行餘其日横濱堂内ハ
主教ヲ始メ教師書生二十人餘横濱須賀ニ到リ申候

教師ニトシヨリ頼依テ書狀ヲ持テ同日帰京仕候

一同十番

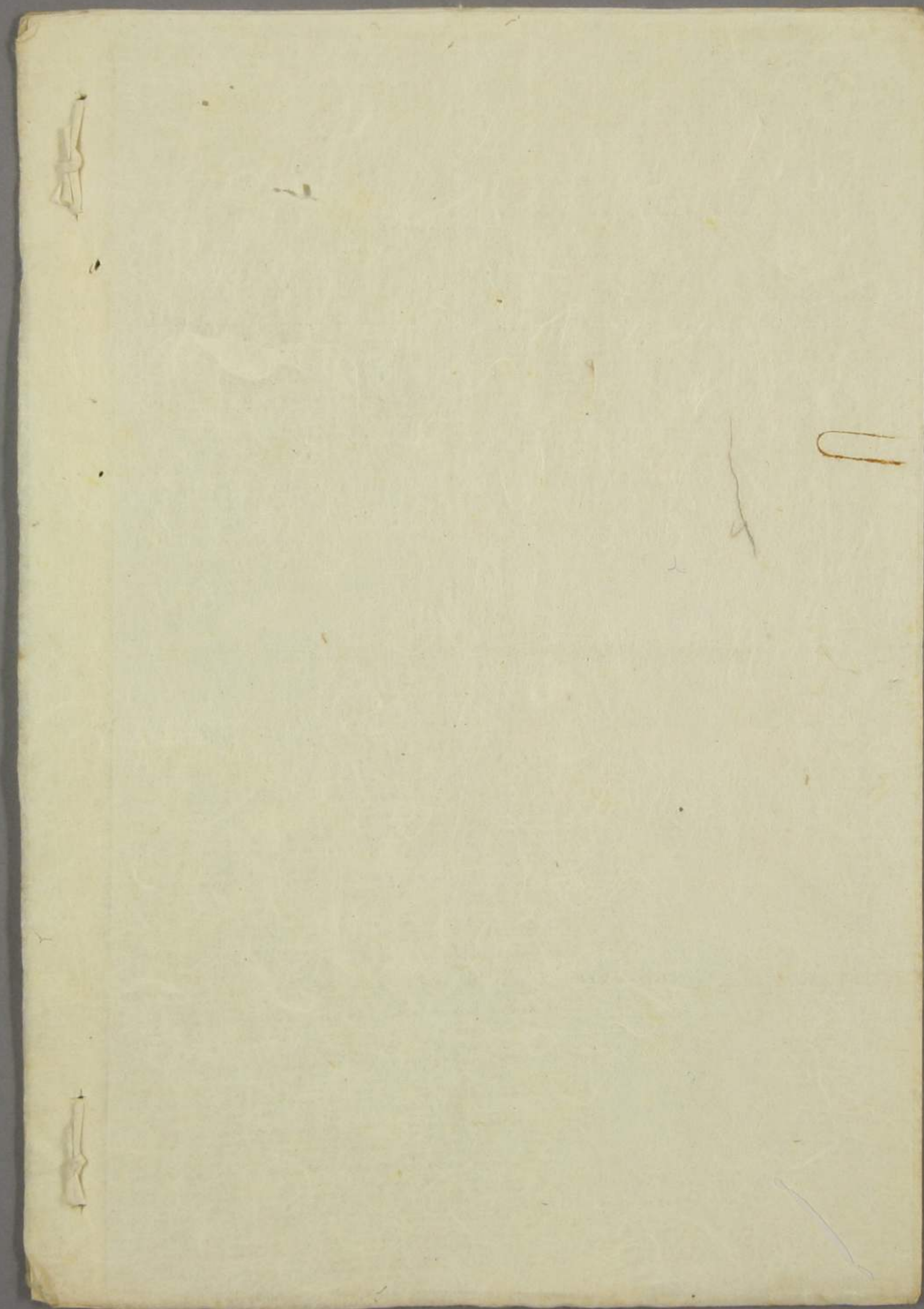
一同十番マリニヨリ里村巨へ教舎探案致し候所申付
諸生ニ同心懸テ小名屋鋪ヨリ且無任ノ寺カ早々周旋
致スル中聞候

一同十七日マリニ多田清助ヲ伴ヒ下港仕候府下教舎狹小
ニテ教法ヲ慕テ諸生多ク来リ入堂ヲ乞ヒ且昇共教舎
別立マテ相折リ居是昨来月申ニ移轉イタシ通学
ノ事モ入堂ヲ乞ヒ又入堂ヲ憚リ候者別舎ヲ建テ信教

者ハ妻ヲ彼ヨリ養ヒ通学ノ方ナキヤテ追々致スベクト教
師ヲ嘆嘆仕候也敬白

申七月

東郷 巖



九月三日

東藏

九月十一日

口上

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



八月廿日 教師マリシ 教會買入シテ 夏ニシテ 下港致シ候

同日 主教ベニトド 府下 教會ニ来リテ 宮城縣 佐々門 使

治部一人ヲ 招キ 教法 戒見 致シ 受洗 相定 申候

同日 十六日 陸軍 齋藤川 善言ト申者 教會ニ来リマリシニ

會話 語付 候 併ニ 傳 師 語ニ 以 應 答 致シ 外 聞 各 用

ヲ 兼 へ 申 出 候

同日 廿日 西聖七克 上下 滌罪 正規 二卷 ヲ 與 へ 申 候 高 日 有

毎 朝 六 字 入 勤 式 拜 申 出 候 八 字 有 勤 式 誓 言 二 字 有

教法此言云 夜七字ヲ 耶蘇氏ノ圖 并 聖教代ノ圖ソ
聴講仕ル候

一同廿日宮城縣甲ノ五六輩来リ入堂シ乞ヒ其中 曾根辰
見ト申者入入堂ソ許シ餘ノ外無致シ候

一同廿四日宮城縣窪田敬助 何等田剛吉南萊喜子
良兵衛入堂

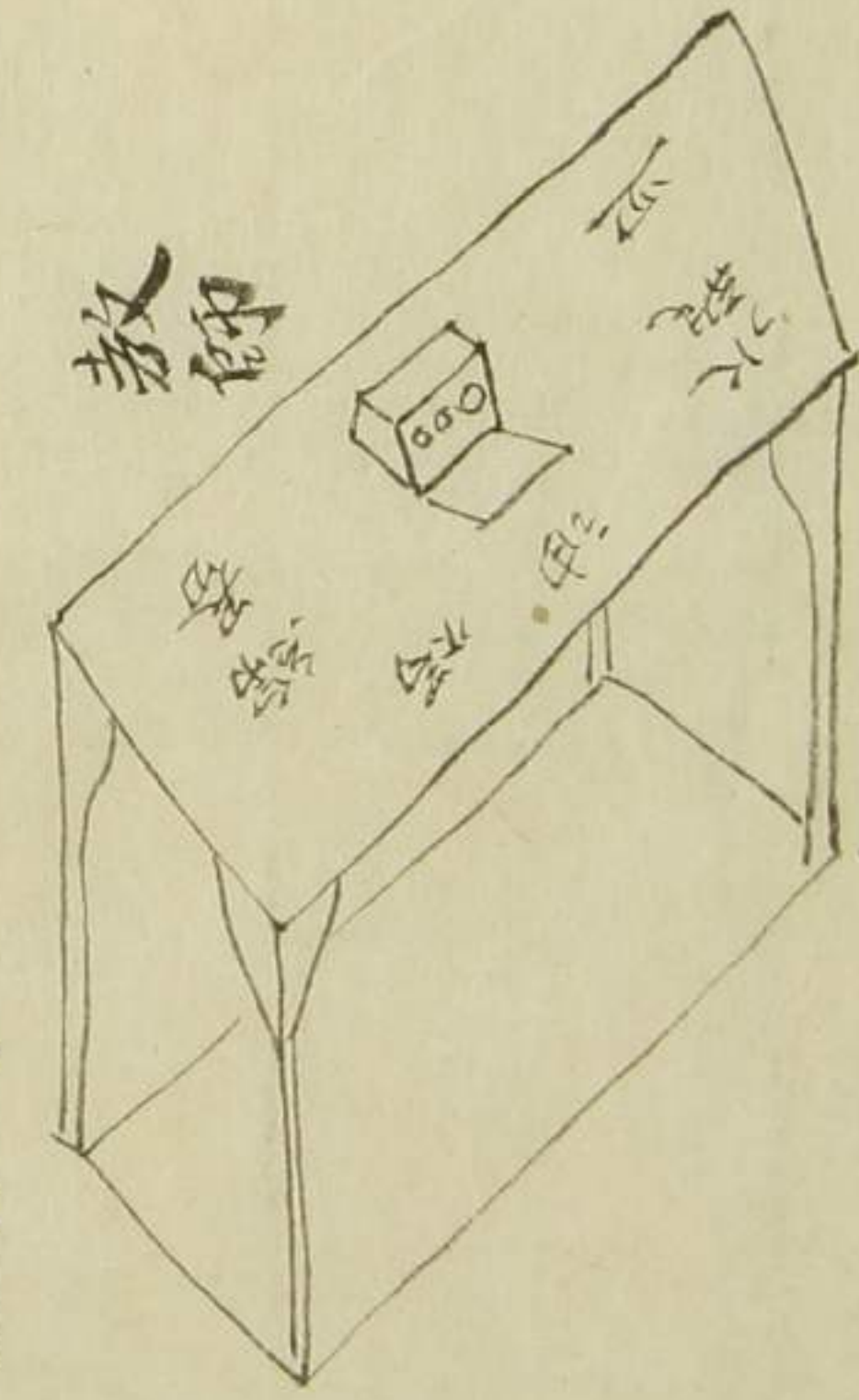
一同廿七日主日洗禮ノ者枕久間健治外ニ名并五字二人堂
外間ニオキ教師堂内ニ經文ヲ誦シヨリ代父長崎圓良
教師同伴シテ二人ノ前ニ来リ代父銀器、塩ヲ以テ立テリ



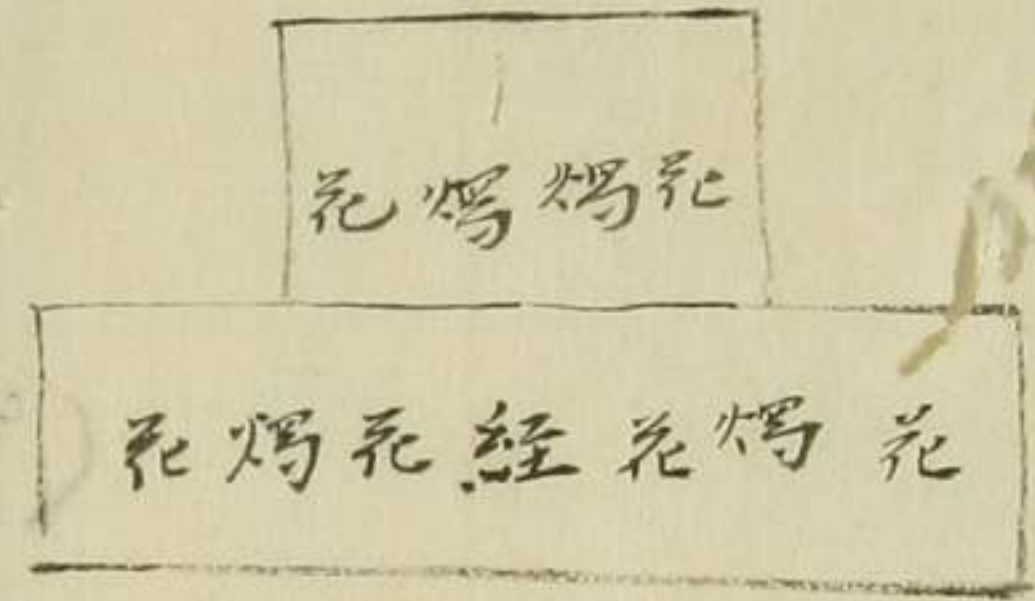
最初教師羅馬語ヲ以テ弟子各問
弟子亦羅語ヲ教會ノ別名ヲ答テ弟ニ問
何等願ヌヤト弟子信通ノ事云テソ
答テ弟ニ問信通何者ヤト永世永福

為テソ答テ弟ニ問永福何依テ成テト辨罪領洗儀ト
答テ終テ教師取耳鼻口額脊胸指ソ以テ十字ヲ画シ而
又信徳変テ成テソ問テ代父弟子ニ代リ答テ二人額ニ
十字ヲ画シ後ニ天主親變テ願フ經文代父ト弟子ト共ニ
誦シ己ニ代テ塩ヲ捧リ教師掲テ弟子ノ口ニ入レ

受天主親ノ下テ表ナリ又教師息ノ子ヲ頌成ル是
 永生ノ聖靈ノ賦ク表ナリ次、唾リテ頌取身自
 下テ画シ是天主ノ子ト表ナリ受テ教師通シテ産到



教師
 生徒
 一人
 佐久間

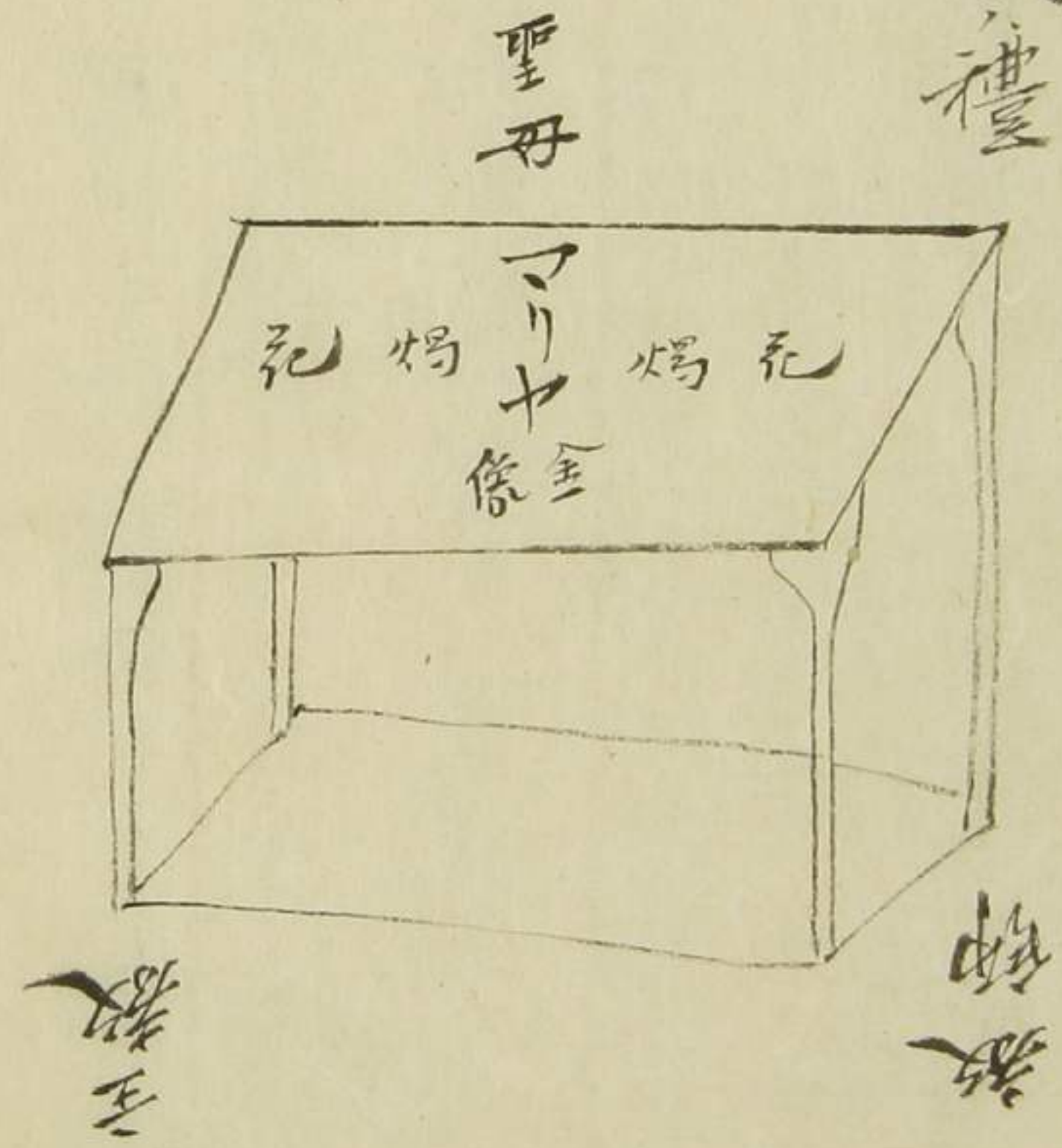


十字架

圖如列ノ後テ所置又ノ代父弟子ト共、誦スセテ主教心
 ナド堂外、加リ第一問答セリテ、油ヲテ頌ニ十字ヲ画シ教師
 綿ヲ頌テ押シ和柔ヲ表ナリ第二問答セリテ、燭ヲテ授テ和
 平ヲ捧テ頌又誦ス是天主ノ明親ノ子ヲ聖靈ノ照ス表ナリ
 第三問答セリテ、又油ヲテ頌胸脊ニ十字ヲ画シ、此ノ問答
 後、教師主教、水瓶ヲ遣テ代父弟子後、面ヲ四ツ持テ、和
 平ヲ頌テ、油ヲサセ、經文ヲ讀ス、主教水ヲ流シテ頌ニ十字ヲテ
 教師白布ヲテ、是ヲ拭シ、已テ感謝頌テ、一同、誦ス頌
 祝、礼畢

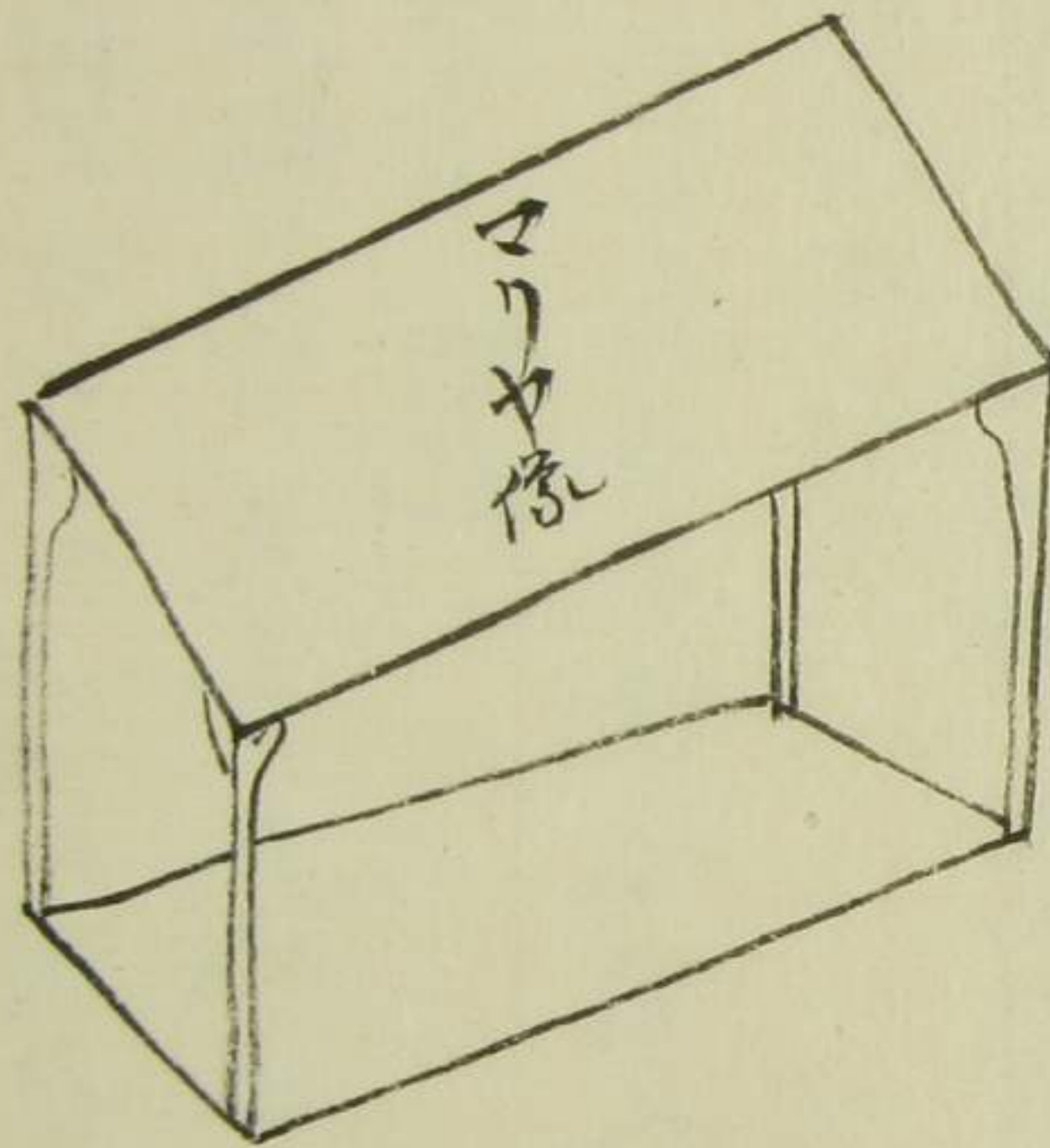
後ニ尋常ノ朝ノ勤式教師ヨリ相勤ノ弟子二八工聖キ體ヤ
 授テリテ所レ謂ル曉ル夜ニ朝式ヨリテ主ノ勤行九ノ字ヲ十ノ字ノ頂ニ十ノ字ヲ
 喫メ飲ム受ル洗ハ入ル餐ヲ應ル禮ス
 第二字奉獻禮

十字高臺



他久間
 一人

右ノ如ク列ノ奉獻ノ經文ヲ誦ス内身ハ言及ニ三ヨリ其
 六根七情身心ノ所為所作迄悉ク聖母ノ取次ニテ
 天主ニ奉ルテ奉獻受納經文ノ教ノ師一同誦ス而



教師
 他久間
 一人
 代文
 主教

石加列メコシタス 珠教 一周マリヤ、頌文ヲ讀ムク奉獻已
是ヨリ主教之師ハ天主ノ名代トシテ命ニ背ル者其ノ教
會ヲ断テ申候也

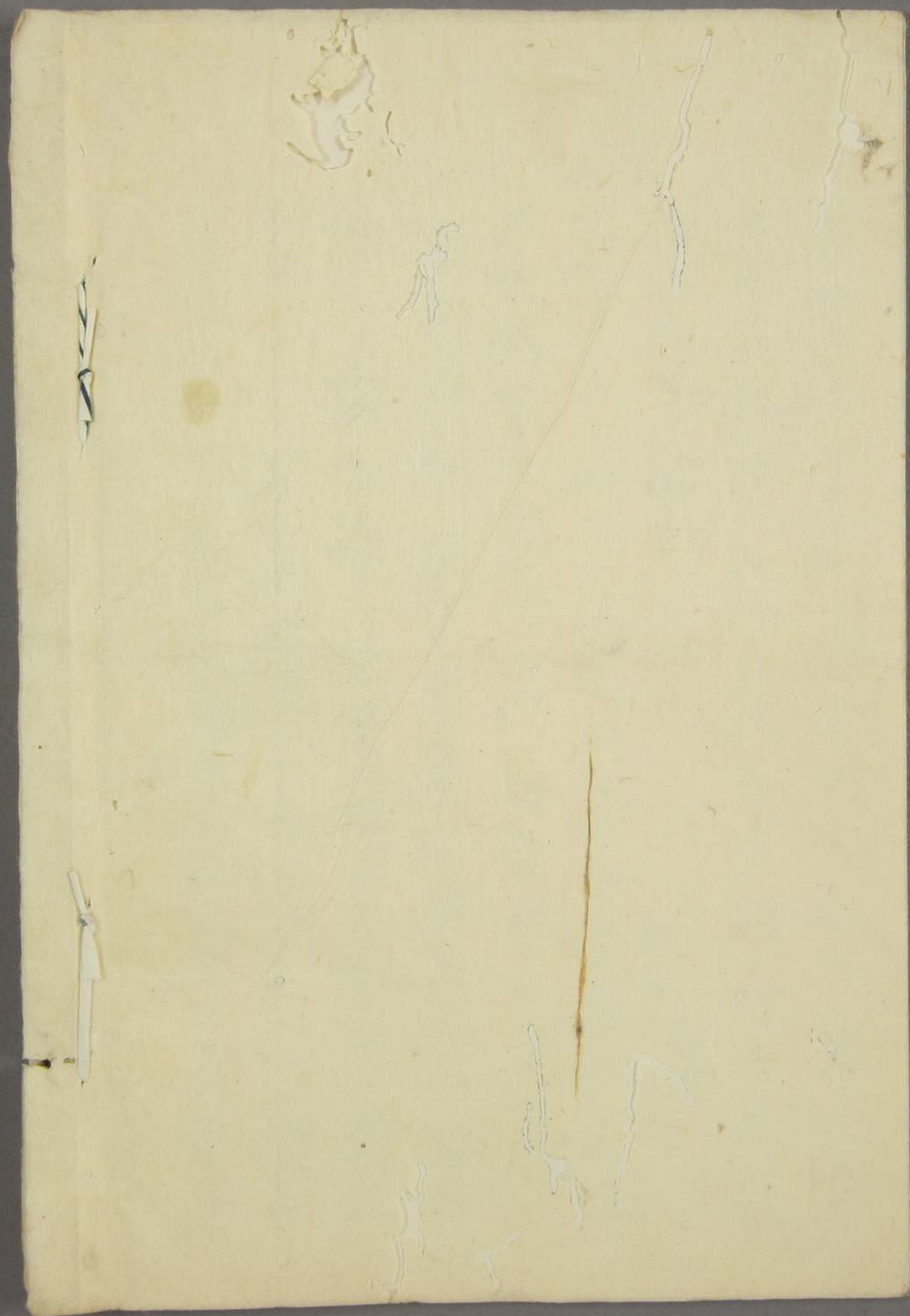
一同本口迄手縣本堂啓造 同本口春賞 函館ニ出候也
リ漢籍指授仕候

一十九日マリノ下港又教舎度マザテ 飯倉町 瑠璃元寺ノ
借受申候教師ニシテ此申候後、ニトシテ、今時以テ支丹
佛法怨トシ神列ニ嚴禁之邪怖ト忌ニ禁ト候如ク國天主ノ
恩親ニ依テ人皆莫神ヲ慕テ、意氣ヲ 顔テ佛徒ヨリ堂

手地支丹ニ貸シ渡エヤリ、成テ、是吾天下天主民ナラ
カニキ由レテ今日本教節有テ廢止致サ、一時、教法弘
通スヘシ人心法ヲ慕テ、是凡官府ヲ恐レテ信テ、少シ併シ天
主恩親ニ依テ、意將、安心場ニ入テ、暫ク内喜、修学致
ス、ト夜執着テ、節候申候 右耳聾、從古有候也

申八月

譯者 某



天主教洗滌秘跡十箇件之略述

凡ノ聖洗ニテ一水洗ニ血洗ニ火洗水洗ニ則テ聖事秘跡

跡ノ首也血洗ト耶蘇ノタメ法為ニ命ツニナリ火洗ト則テ熱心

天主ヲ愛スル萬物ニ勝ケ及ヒ熱心已罪ノ根ニテ萬苦ヲモ甚ス

ニツノ者何レ洗ニ拍クス皆能ク人ノ靈魂ヲ救フ依テ最初ノ心ヨリ

天主ヲ愛スル水洗ヲ領スルヲ得テ雜モ但洗ヲ領スル意ヨリ

レ皆赦罪ノ蒙リ聖寵ヲ受ケ天堂ニ升ル無盡ノ福ヲ享

ナリ

ナリ

差代文ヲ立 將ニ洗ヲ領セル後聖教ノ事理ヲ學ビ一教中ノ

大正十一年四月 大隈侯爵邸寄贈

車表

小池



人ヲ請フテ代文トス依テ日後教訓ヲ盡シ終身保任シ善ナシ
之ヲ勉メ惡ナシ之ヲ戒ム此皆代文代母ノ職ナリ凡ソ代文代母
トモテ其代子代母ニ代子代母トモテ皆婚姻ヲ許サス

第二堂前ニ立テ將ニ洗フ領セントモテ一向天主ヲ愛シ喜リニ邪神ヲ拜シ
喜ニ吉凶ヲ信シ喜ニ邪喜ノ事ヲ行フテ皆邪獲ニ背テ故ニ天主
ノ人トモテ可ラス今堂外ニ立テ尚フ願進シテ敢テ主ニ背クノ惡ヲナサ
サレ為テ教師經テ念テ天主ヲ赦罪ノ祈ル魔ノ逆テ堂入り
將ニ洗フ領メ天主ノ門ニ入ントス故ニ堂外ニ立テ日後能テ天主ノ門ニ入
コトヲ表ス

第三聖名ヲ定ム凡ソ初テ世ニ生ラレテ則其父母之ニ名ヲ命シ已後之
ヲ呼フ領洗ノキテ初テ天主ニ生ラレテ始テ靈魂ノ生命ヲ得故ニ聖人ノ名
ヲ選ニテ之ニ名ナリ又聖名ヲ定メ領洗遂ニ者自今聖人ノ名徳
ヲ以テ己身ヲ鑑トシ終身カク竭シコレニ效ヒ且ツ聖人天主ノ堂前ニ
アリテ己身ヲ保任シ一生身神ノ平安ヲ賜フテテ求ル為ナリ

第四噓氣ノ魔ノ攘フ邪獲在也宗徒ニ向ツテ吹噓ノ曰ク爾輩聖
神ヲ領受シ洗フ授ムラ吹噓メ天主ノ水ノ邪魔ヲ驅テ其心
ヲ清メ聖神降居ノ潔所トナス表ナリ

第五十字聖號ノ印ス 斯ノ聖號ハ 耶復受難ノ器ニ邪魔

フ伏之権アリ魔鬼最畏ルモ斯十字ナリ故ニ教師十字
聖髻ヲ領洗者ニ畫キ邪魔ヲ逐之カ為ニ敷埃セカニナリ
聖言ニ帝ヲ御仰見物臣民毀損セカル今聖髻ヲ領洗
則チ天主印銘ルニ等シ魔鬼天主人スリ知テ敢テ侵害ス
能ハサル為ナリ

第六頂額覆フ 宗徒在世ニ病者耶我ヲ祈ヘ手リツ之ヲ覆フ病
忽ケ愈エ教師之レヲ傳ヘテ手リツ之ヲ領洗者ノ額頂ヲ覆フ天
主神病ヲ醫問ステ之ヲ求メ表ナリ

第七聖塩ヲ領ス 塩徳ニアリ一物有味不淡 二物堅久不壞 夫
人情トシ飲食有味ト嗜ミ無味トシ厭フ 物塩ヲ用テ存シ用セ
ハ朽ツ臭穢甚ク孰カ之ヲ紐シ今教師聖塩ヲ以テ領洗者ニ
天主ニ祈求ス直ニ聖教通徳ノ耳味ヲ賜フ且恒久道ヲ行ヒ徳ヲ
修シ厭愛ノ心ヲ生ヤス故ニ死後天主其靈魂ヲ厭ハズ之ヲ
生永福ヲ賜フ表ナリ

第八聖帶ヲ捧テ入堂 領洗者ノ靈魂初テ生ス者也孩童習歩
ノ時拳足各行スルニ能ス必ニ父母ノ袖帶ヲ持シ漸々緩歩ノ中進
歩ス今領洗者教師ノ聖帶ヲ捧テ自ラ天堂路ヲ行ク能ス
教師ノ携引ヲ頼シテ天國ニ昇ルノ表ナリ

第九耳鼻ノ二司ヲ點ス 耶蘇在^世手ヲ以テ一龍身痛ノ耳鼻ヲ點ス病
即々愈ユ自ラ能誨シ宗徒説フ聞ク斯ノ聖蹟ノ如ク耳鼻ヲ
開テ長ク罪惡ノ臭ヲ厭ヒ常ニ善徳ノ香ヲボヘ表ナリ

第十聖油ヲ付ス 此油爪西國阿利瓦樹ノ葉汁ナリ最良藥
ニ能瘡病ヲ治シ又能人ノ氣力ヲ増ス今少言テ借ラテ
聖油ヲ付シ靈魂ノ神藥トス教師聖油ヲ以テ十字ヲ領洗者
ノ胸付ニ画キ天主其神病ヲ醫スルヲ求メ其私欲ヲ絶テ其
神カヲ加フ爰テ耶蘇曰ク我ニ同キ十字ニ背クモ我徒ニ非スト
故ニ聖通ヲ堅持ナ患難ニ過フト難モ敢テ變志セス常ニ十

字ノ聖號ヲ行フナリ

第十一聖水ヲ洗フ 水爪肉身ノ汚穢ヲ洗滌ス今世ノ意思ヲ借ラテ
耶蘇聖洗ヲ以テ靈魂ノ罪ヲ洗フヲ表ス故ニ天主
命ヲ奉テ教師聖水ヲ用ヒ領洗者額ヲ洗テ天主聖統
ヲ求メ真ニ罪ヲ赦シ領洗者ツレテ天主子トナラシムナリ

第十二再ヒ聖油ヲ付ス 斯油ヲ加フニ領洗者毫モ罪惡ノ臭ナリ
善徳ノ香ニテ表ス天主慈仁ノ恩ヲ蒙ルヲ自ラ喜悲
心ヲ發メ他人ニ及テ當然ノ理ナリ

第十三羽衣ヲ蓋ス 白衣爪潔淨ニ無罪無垢ナリ若シ一タヒ

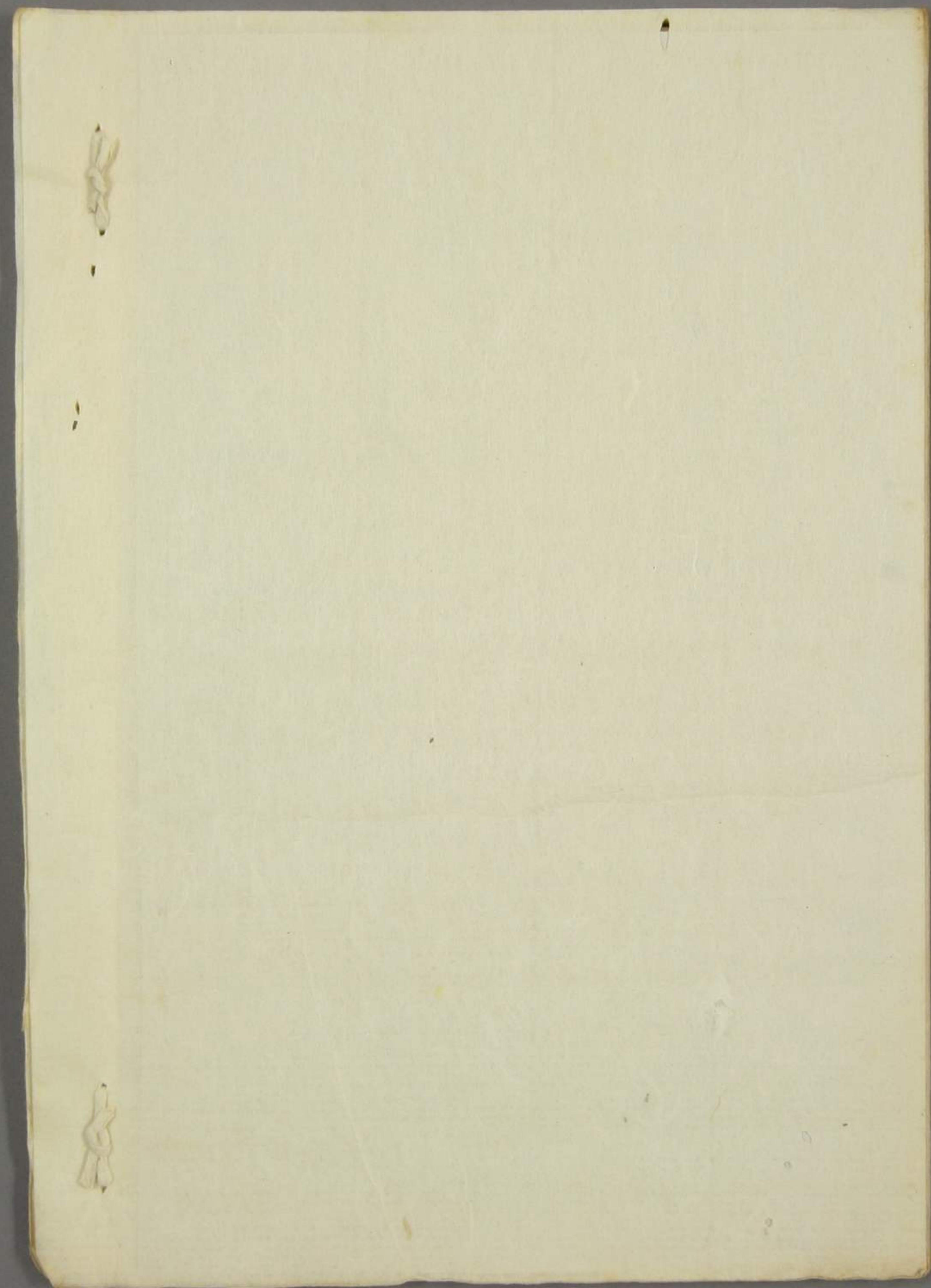
之ヲ深クハ其原白ノ色ヲ得テ一難シ故ニ今白布ヲ用ヒテ領洗者ノ
首ヲ整ヘ其靈魂ノ潔淨ヲ表ス猶シ白布如ク罪ヲ汚テ去ル
穢ナレ必ズ永遠專務盡力シテ主命ヲ守リ終身変セス者
再ヒ主命ヲ背キ罪惡ヲ謀ラコト魚ノ潔淨ヲ得テ一難シト云
表ナリ

第十四聖燭ヲ執ル 燭ニ三月アリ一光ニ整立ニ三熱 光リニ信徳
ヲ表シ整立ニ三聖徳ニ比レ熱ニ愛徳ヲ顯ス今教師領洗
者ニ燭ヲ授テ愛聖信ニ徳ヲ備フテ之ヲ表シ三徳ナキヲ奉
教ノキト云可ス身ニ徳ヲ具スニ天主ノ明德常ニ我カ暗冥

ノ心内ヲ照スノ表也

申十月

野者 某謹誌



全中...
中...

口上

一九月十日宮城縣曾根巽弟二大區十七小區 遷葬 召出也

出堂仕候

一同十九日三瀨縣士元三池藩 渡邊三年入堂致し十月七日家

父病依テ歸生致候

一同廿日聖王綱鑑上略夕七字甲九字迄講義相作申候

一同十月朔諸聖祝日三十分五字入堂宮城縣目黒煩藏

今泉三物下村祐三三名受洗 有人依久間健治圓長

前三人列如代父上ノ勅式相行申候 諸事先月言上

大正十一年四月

東義

大元



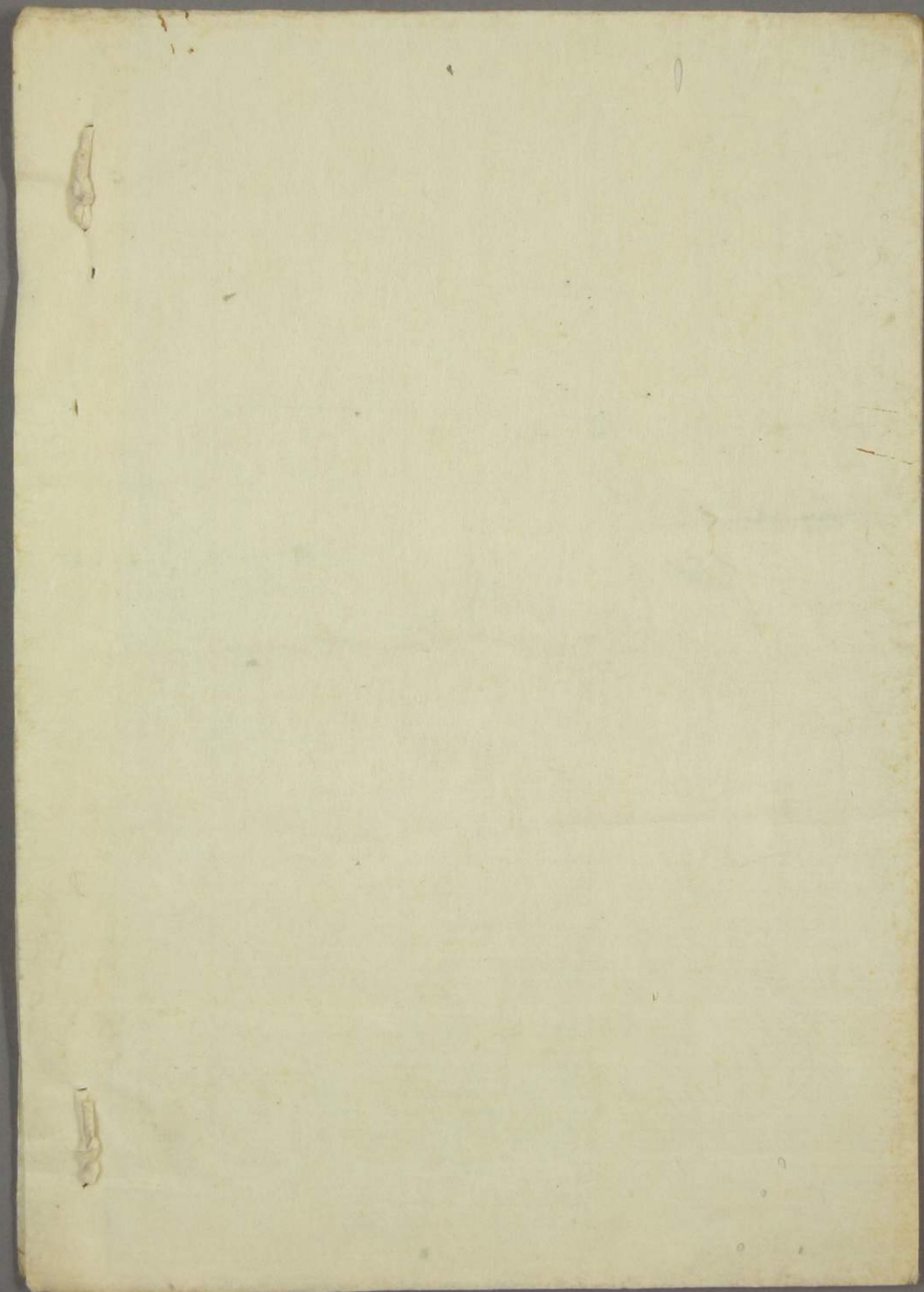
通リ洗禮ノ意意粗別誌ヲ以テ申上候當權儀教師ヘッテ
外ニ人件ト承テ會議コレヲ其故言辭野郎ノ上等ノ
人負對シ時々不弁ノ言多ク依テ諸生トハ二輩ヲ選ビ歐列
致クレノ為輩者日小語ヲ学ビ講義談議等ニ身近上等
言辭ヲ用他ノ時々受テ計ト申ス夫ハ就ハヤアフルカ
マリシ西人内一人帰國シ諸生ノ件ト双方通弁トテ不口或切
ニ教ヲ高上ト布テ今日本ニ通ノ教則ヲ以テ教部省ノ開ク併
ニ通各々ニ權ヲ争ヒ教規今カク内聖教ヲ十分ト布絶
テ一同天ニ民トナシテ又諸生ノ内一人ノ和ノ件ト申テ

マリシ申聞候為長崎ニ下向致居候主教ヨリ書狀到
未當月迄カ末月向ノ權儀歸堂致ス可ク夫迄西行ノ
義見合ヤ申スヘ由申裁シ候

一七日長崎大工三物ト申者圓五良ト代メ来リ進々天主堂極
手輕造立シ通字ノ人負生ノ堂ヲ許シ申スノ談話傳候
一同十日午後マリシ下港致シ十四日歸府其故ニ引テ門下渡
邊某進々教法弘通建言三派教師連名ニ差上申
度談話致シ候ニ種々權儀會儀致候由併ニ天主教致
リ一連ノ建白ト加リ申サレ由教師マシ直話任候

申七月

照者某敬白



明治二十一年四月
才一百十号

口上

大正十一年四月



東

一三月廿日 島言屋即預 長崎縣浦上村惣歳
告解来り親 族ス 追々 役人 衆アリ 近日 帰郷
即免マルベ 申聞ケラレタリ

一同 七日 伊勢即預ケル浦上 第七ト申者ニ列テ
淡路前ノ如シ

一 同 八日 紀列ヨリ 邦彦 政府 天皇 幸ニ 音 書リ 送
其ノ 趣 意 帰 国 勝手 免 行リ 後 ケ タル ト
丁ナリ



一四三十日神戶教師ハケルニ曰ク中国諸島ノ物支丹
追々告解来リテ前条ヲ詔ニシテ是ニ依テ早ニ傳通
ナリト云ク願ク緝卷一ニテ神港ニ呼ビテ其由ケル
誤語叙レ候

一四廿一日尾列邦預セテ七十八年余夜府堂ニ来リ告解
是正ノ御免ニ依テ歸國致シ候

酉三月

某致白

明治五年四月

如表

神政新事記

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

一四月二日奈良縣御預、邪徒近口不通依、聞、
 兼、吳侯ヤ、教師ク、ザン、頼、談、イ、タ、シ、候、
 日、發、是、致、四、日、邪、徒、恐、助、申、者、
 此、少、已、上、モ、聞、格、役、セ、ラ、
 一、向、寸、暇、モ、ナ、ク、出、政、出、
 候、
 二、日、歸、留、六、日、歸、政、
 候、
 一、七日、神、戶、教、師、
 未、改、ノ、由、話、申、候、



一十一日 和列砂、忍寺弟子信住小田某、同寺末幡村專
稱寺現住教舎未入堂ヲ請ヒ受九月中旬未改
ヲ納シ帰郷仕候

一十二日 土佐小嶋順和、領洗、奈良ヲ即禱ノ徒二名
未

一十二日 政府下、雜咽場、茂五、門橋、第人力屋、磯七
子ニテ、領洗致シ候仕者、ク、ザン、改政所、学校、通
勤ノ車、列ナリ

一十四日 奈良ノ、外、徒、忠七、未

一十九日 七、イ、ナ、ノ、教主、若、港、ノ、由、電、信、ヲ、通、知、候、了、ノ、
納、免、三、東、証、勞、良、二、人、迎、ニ、新、候

一廿日 加賀、即、禱、ノ、外、徒、四、名、入、帰、郷、西、ノ、宮、近、迄、赤
老、少、歩、行、ナリ、カ、タ、ク、改、府、ニ、未、リ、テ、ク、ク、サ、ニ、申、出、候、旨
曰、人、ヨリ、府、廳、ニ、存、老、夫、ノ、三、船、路、ニ、テ、帰、郷、仰、向、ラ、ク、
ノ、願、出、候、外、廳、ヨリ、西、ノ、宮、ニ、改、府、ノ、管、轄、ト、申、連、
兵、庫、ニ、願、出、候、上、ノ、勅、切、ノ、書、状、ヲ、以、テ、願、書、即、下、ケ、
相、成、リ、申、候

一廿三日 七、イ、ナ、ノ、主、教、エ、ヒ、ス、コ、ホ、教、師、ハ、ツ、テ、二、名、ヲ、前、迎、

新侯 東能勢 納卷 伴 府 天主堂 赤
右 主教 景境 割 連 弘教 見 込 在 政 令
二 今 在 堂 口 能 在 候

一 小 嶋 順 治 コト 延々 布 教 ノ 為ニ 歸 鼎 致シ 候 由 談 信
仕 候 附 神 戶 教 師 へ シル 東 上 仕 候
右 聞 取 候 事 上 言 上 致 候 取 付

酉 四 月

集